

NPO 法人東京 YWCA 福祉会 通信

8号

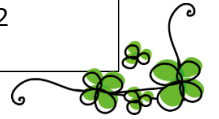
2020 年 7 月

特定非営利活動法人東京 YWCA 福祉会

<事務局>〒174-0043 板橋区坂下 1-34-25 公益財団法人東京 YWCA

板橋センター内 TEL03-5914-1854 FAX03-5914-1852

URL <https://ywca-fukushikai.tokyo/>



緊急事態宣言以降の東京 YWCA 福祉会のうごきを報告します

新型コロナウイルス (COVID-19) の感染拡大防止のための緊急事態宣言が 2020 年 4 月 7 日に東京都を含む地域に出され、外出自粛の更なる要請や店舗等に対する営業自粛要請など、生活に様々な影響がありました。皆様いかがお過ごしでしたでしょうか。東京 YWCA 福祉会通信 8 号では、緊急事態宣言以降の東京 YWCA 福祉会のうごきをご報告いたします。



Y's コート ゆい 就労継続支援 B 型 (働く場)

今年度、ゆいは 3 人の新たな利用者を迎えました。昨年度の途中から通い始めた人も合わせて、4 月 1 日に入所式を行いました。新型コロナウイルスの感染予防のため、讃美歌や歓迎のお茶会はなく短い時間でしたが、新人にとっても迎える先輩にとっても、心新たにスタートするけじめの会となりました。昨年秋からの求職活動の結果、4 月 5 日をもってゆいを退所し就職をした利用者もあり、出会いと巣立ちの春でした。

緊急事態宣言期間中のうごき 4 月 7 日 (火) の夜に緊急事態宣言が出された後、東京都からはまず、事業所に対して“利用者と家族の状況を踏まえ、可能な場合にはできる限り通所を控えてもらうことで規模を縮小し、感染防止に努めるように”という旨の事務連絡がありました。それを受け、利用者の方々には緊急事態宣言が解除される予定のゴールデンウィーク明けまで通所の自粛をお願いし、全員の方が協力くださいました。通所自粛期間中は策定した在宅支援計画に基づき利用者と毎日連絡をとり、健康状態や生活の様子把握につとめました。職員は混雑時間を避けて通勤する等、感染予防と体調管理に気を付けながら勤務しカフェ JOY の新メニューの試作や布マスクの製作等、再開に向けた準備を整えていました。男性の職員は日中ホームで過ごす利用者の介助を助けるため、Y's ホーム ハイホーの応援にも入りました。

緊急事態宣言の延長が 5 月 4 日に発表されたものの、在宅で過ごすことにフラストレーションが溜まる、生活リズムが崩れる、家族も仕事を抱える中自宅で過ごすのはそろそろ限界、という状況も見えてきました。そのため 5 月 11 日 (月) から、朝と夕の 1 時間ずつ時間を短くし、利用者を半数ずつのグループに分け 1 日おきの分散通所を開始しました。本人の状況やご家族の仕事の状況等で必要な利用者は毎日通所にしました。この体制を 5 月いっぱい続け、6 月 2 日 (火) より全員、毎日通所に戻りました。

利用者の気持ちに寄り添った支援をしていきます

通常の支援が始まって 2 週間ほど経った頃、帰りの会で利用者に「ゆいに慣れましたか？」と質問をしました。手を上げる人が少なかったので「まだ慣れてないですか？」と尋ねてみたところ利用者の 1 人が「慣れたのか慣れてないのか、まだ分からない」と発言しました。その言葉に多くの利用者が頷いていました。

1 人 1 人区切られた作業環境や暑くなってきた中でも息苦しいマスクを着用しなければならない日々に、表面的には普通に作業をしているように見えても、ストレスを抱える利用者もあるでしょう。そのことをこの答えが示していると受け止めました。

気持ちに寄り添った支援を行い続けることの大切さを感じています。



作業スペースのレイアウトを変更し、1 人 1 人の席に仕切りをしました。周囲の状況に左右されず集中できる利用者もいます。

Y's ホーム ハイホー 共同生活援助（グループホーム）

ハイホーでは2月末から、入居する利用者の朝・帰宅時・夕方の検温を始め、体調の確認に努めました。2月末から勤務先の特例子会社が在宅ワークとなり日中もホームに滞在する利用者もいました。緊急事態宣言が出されてからは、通所先、勤務先から通所、通勤自粛要請が出され、ほとんどの利用者が平日の日中もホームに滞在することになりました。

もともとあった感染予防マニュアルを新型コロナウイルス感染症対応にバージョンアップし、以下のことを含め感染予防対策に気を付けながら生活しています。

- ・手洗い、うがい、定期的な検温の徹底
- ・定期的な換気
- ・玄関前に消毒液を置き、ホームに入る前に手指を消毒、靴や車椅子も消毒
- ・食事を一斉でなく、時間差を設けて2人程度で摂るようにし密にならないように配慮
- ・体調不良の利用者が利用するトイレ・風呂を限定し、他の利用者と分ける

ご家族のご協力 利用者のご家族にもホームの訪問の際は玄関先にとどまって頂いたり、回数を控えて頂いたりのご協力頂いています。この間に発熱したり体調を崩す利用者もいました。その際はご家族にお知らせし、すぐに病院受診など必要な対応を取って頂き、また、体調不良の間はホームに戻らず自宅で過ごすようにして頂いたこともありました。ご家族の理解と協力によりハイホーの生活を守ることができています。

自粛期間中の支援体制 グループホームの利用者は日中それぞれの通所先や職場に通っているので通常、夕方～朝の生活が支援の中心です。この間、夜勤職員の勤務時間を延長し「ゆい」の男性職員(同性介助のため)の応援も受け、介助のために常に2名体制をとりました。それに加えて日勤の職員が掃除、洗濯、昼食の用意等を担当し、日中をホームで過ごす利用者の支援に当たりました。

緊急事態宣言期間中の支援費（就労B・グループホーム）

緊急事態宣言が出された直後より、厚生労働省から「福祉事業は継続が基本ということになっていることから、利用者の自宅等においてできる限りの支援を実施した場合は、報酬の対象とすることが可能」と伝えられていました。それに基づきゆいでは在宅支援の支援計画を作成し、支給決定を行う各市・区に提出した上で支援に当たりました。その在宅支援については、通常の支援と同額の福祉サービス給付費が支給されます。グループホームについても、6月に入り、感染予防のために自宅に帰省した利用者について、在宅支援を認めるという方針が厚生労働省から出されています。

グループホームの日中支援にかかる支援費

現行のグループホームの報酬体系では、利用者が月に3日以上、日中にホームに滞在する場合には「日中支援加算」を取得できます。この加算は1人1日あたり約1,500円または約3,100円で、職員の勤務延長をして日中の体制を充実しても、それに充分見合う追加の報酬はない状況です。また生活介護や就労継続支援B型等の日中のサービスを利用しながらグループホームで暮らしている場合、日中の支援費はどちらかのサービスにしか支給されません。今回のようにグループホームに居ながら例えば就労Bの在宅支援を受ける場合、どちらが支援費を国に請求するかは事業所間で調整するように、と都から事務連絡が出されています。その支援費は事業所間で分配することは可能なので、それも事業所同士で個別に調整するようにとの方針です。様々な事業所が関わり利用者を包括で支援している中、支援費が満額支給されない状況が生じています。

この課題については、板橋区グループホーム連絡会で共同して区や都に要望を出しています。



＜新型コロナウイルス(COVID-19)の感染拡大に伴う社会のうごき＞
4月7日(火) 新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言 発出
(1都6県に対して、5月6日まで。4月16日対象を全国に拡大)
5月4日(火) 緊急事態宣言の5月31日までの延長発表
5月14日(木) 39県で緊急事態宣言解除
5月25日(月) 6都道府県の緊急事態宣言解除



<カフェ JOY 再開 お弁当販売を始めました>

カフェ JOY は 4 月 13 日 (月) から休業に入り、5 月 18 日 (月) に営業を再開しました。店内での飲食はやめ、店頭でお弁当を販売しました。お弁当は 1 つ 500 円でインスタントのお味噌汁付き。以前からの常連さんに加えて新しいお客様も増え、ほぼ毎日完売です。もともとのお弁当販売に力を入れていきたいと考えていたので、よいきっかけとなりました。自粛期間中に作り貯めた布マスクも好評でした。

7 月 1 日からはイトインを始めましたので、どうぞご利用ください！



カフェ JOY 店内のレイアウトを変更し、1 席ごとに間隔を空けました。

<受注の仕事を探しています>

「Y's コート ゆい」では、色々な軽作業を請け負っています。

座り仕事、立ち仕事問わず、また細かい作業でも、体力を使う作業でも、丁寧、正確に作業します。

職員が検品した後、納品します。訪問等の仕事の際は、職員が同行します。

(仕事例) 袋詰め、包装、シール貼り、封入、DM 等の仕分け・ポスティング、部品組み立て、清掃作業等 (請負単価) 1 工程あたり 0.5 円～ ※作業内容に応じて異なります

<「坂下ゆい商店」の商品はこちらでお買い求め頂けます>

「Y's コート ゆい」では、ブローチ、ブレスレット、紙漉き製品を自主生産ブランド「坂下ゆい商店」と銘打ち、販売しています。

カフェ JOY	店内でご自由にご覧いただけます。	
スマイルマーケット	板橋区役所 1 階ロビー	毎月第 4 水曜日 11:30~14:00 ※7/1 現在休止中
都営三田線「高島平駅」	「スマイルマーケット高島平駅ナカ店」(西口改札外)にて 2019 年 12 月より常設販売しています。(開店時間: 平日 11:00~19:00)	
KURUMIRU (くるみる) 都庁店	東京都庁 パスポートセンターそば	常設販売
札幌 YWCA 「Y's café」	JR 札幌駅/地下鉄さっぽろ駅より徒歩 5 分のところです	



油処理パッド「すいとるゾウ」
飲料用紙パックを細かく千切って作っています。



小ぶりのクリップタイプは、マスクのワンポイントとしてもお使いいただけます！

Y's コート ゆい 「坂下ゆい商店」の商品の材料・道具を探しています！

○使わなくなったアクセサリー (パールやビーズ(素材問いません)などを繋いだネックレスやブレスレット)
⇒分解してパーツを外し、洗浄して、繋ぎ合わせ、ブレスレットに仕上げます。

○牛乳パック等、飲料用の紙パック ⇒「すいとるゾウ」(油処理パッド)や紙漉きはがきの材料になります。

○ミキサー ⇒紙パックを細かい紙片にする時に使います。

○コード付きアイロン ⇒紙漉きはがきを作る時に使います。

「カフェ JOY」・「坂下ゆい商店」の商品の売上額が

「Y's コート ゆい」利用者の工賃(お給料)になります。応援をお願いします！

募金活動のお礼

多くの方から温かいご支援を頂きました。心より感謝申し上げますとともに、ご報告申し上げます。

2019年12月1日～2020年6月20日の期間にご寄付頂いた皆様（敬称略・五十音順）

個人	企業・団体・グループ	物品寄付
佐々木 浩子 佐藤 香織 佐藤 浩子 外崎 弘子 新田 和子	板橋センターの事業を支える クリスマスバザー実行委員会 カフェJOYでのアクセサリー ミニバザーより	小原 優子 柏木 妙子 佐々木 浩子 手島 千景 土岐 祥子

寄付金合計： 307,650 円

ご寄付のお願い

新型コロナウイルス（COVID-19）の感染状況と新たな情報、またそれらを受けて変わっていく国・都の方針に対応しながら、利用者の働く・暮らすを含めた生活を支えるために尽力しています。皆様の温かいご支援をお願いいたします。

＜方法＞ 【現金】 事務局(東京YWCA板橋センター内)にてお受けします。

【銀行振り込み】 ・東京信用金庫 **志村支店（普）4062567**
・三菱UFJ銀行 **志村支店（普）0194008**
・ゆうちょ銀行 **10010 31108311**

口座名義：「特定非営利活動法人東京YWCA福祉会」

トクヒ) トウキョウ ワイダブリューシーエー フクシカイ

*お振込みの場合、払込時の控えをもって領収証に代えさせていただきます。

寄付金控除制度の活用をお考えの方は、お申し込みの前に事務局までお問い合わせください。

お振込みの前に、
寄付申込書をお送り頂くか、
ご一報くださいますよう
お願い申し上げます。

コラム『一粒の麦』

コロナ禍の中、私の生活もずいぶん変わり、自宅の調布市内を離れずにじっとしていました。元々臆病な私は毎日の感染者数が気になり地元はどうか、板橋の「ゆい」や「ハイホー」、板橋センターの「キッズガーデン」の皆はどうだろうか感染してないだろうかと気をもんでいました。

私たち大人はともかく、外出できない子供たちを抱えたご家族はほんとに大変だったでしょうね。

「STAY HOME」に忠実だった私はこの間、よく新聞を読みいつに増してTVのニュース、ドキュメンタリーをじっくりと見ました。コロナ、黒人問題など国内外の様々な事柄に心揺れ動かされることが多くありました。そんな話を皆と会ってしたい、皆の様子も知りたい、やはり人間は人と交流がないと寂しいものですね。

電話やメール、手紙では何か物足りない。人は人と直接顔を合わせ、言葉を交わし時には触れ合うことが、心と身体の成長にも必要だし、お互いへの信頼や理解もそこから生まれてくるものだと感じたこの3か月余りでした。

この先しばらくはウイルスとの関わりは続くと言われています。

前途多難と思うとちょっと憂鬱ですが、この際、マイナス面だけを見るのではなく前向きにプラスに考えて、この福祉会も何とか上手く、賢く、毎日を過ごしていきたいものです。

自分一人ではなく、福祉会のみなで力を合わせて乗り切っていきましょう。

（監事 横田千恵子）

